

津山市史だより

2025.3
第24号



江戸一目図屏風

目次

- ・部会通信ほか 2
- ・美作学講座要旨 3
- ・村に建ち並ぶ侍屋敷
—御城から衆楽園まで—
網澤広貴 4 ~ 8



市役所1階で展示中のレプリカ



「江戸一目図屏風」部分拡大 浅草寺門前

現在テレビドラマで葛屋重三郎が取り上げられています。葛屋重三郎は江戸で有名な出版業者でした。

葛屋重三郎が活躍した安永から天明にかけての時期には、江戸において武家文化人・地方出身者・江戸っ子が一丸となって多彩な江戸文化を創出したといわれています（宝暦・天明文化『国史大辞典』）。この江戸文化に大きく関わった葛屋重三郎、大田南畝、山東京伝などに関係があったのが鋏形蕙斎（北尾政美）です。蕙斎は、葛屋重三郎関わったいくつかの書籍の挿絵を手がけました。

津山藩は、すでに江戸で有名であった蕙斎を寛政六年（一七九四）五月に絵師として召し抱えました。そして、蕙斎は文化六年（一八〇九）に代表作の一つである「江戸一目図屏風」を描きます。現在、津山郷土博物館が所蔵するこの「江戸一目図屏風」は、西洋から伝わった一点透視図法を巧みに取り入れた、写生的な視点による新たな都市図と位置づけられています（津山城築城四〇〇年記念特別展図録『鋏形蕙斎』）。

「江戸一目図屏風」の視点と、東京スカイツリーの展望デッキからの視点はほぼ同じ位置であるといわれ、スカイツリーには「江戸一目図屏風」のレプリカが展示されていました。現在このレプリカは津山市役所1階に移設されています。

テレビドラマで話題になっている江戸を一望できる「江戸一目図屏風」の世界を市役所でもぜひお楽しみください。

（東方）

こうした点を踏まえて、対面所の建設について展望を述べる。対面所は、一七世紀半ばに築かれた邸宅をもとに庭園として整備された。これは本稿で確認した時期から一〇〇年程度前のことである。この時期は、森家が藩主で、所領も美作一國で二五万石余を領した^⑪。松平家の入封ののち、享保一一年（一七二六）から文化一四年（一八一七）までの津山藩の所領は五万石であった。このことを考えれば、一七世紀半ばには数倍の家臣団を抱えており、足軽や中間などの武家奉公人もより多く存在しただろう。森藩時代の正保元年（二六四四）の城下を描いた「美作国津山城絵図」を確認しても、松並木以南には武家屋敷が建ち並んでいる^⑫。少なくともこの時期には、本来山北村である場所に武家屋敷が拡大していったといえる。よって、対面所を邸宅として建設したときにも、同様かそれ以上の侍屋敷が松並木以北に存在したのではなからうか。

このように考えれば、対面所は城下から少し離れた場所に、しかも田畑の中にポツンと築かれたのではなく、城下から武家屋敷を抜け、侍屋敷が建ち並ぶ地区を抜けた、続きの開けた土地に建設されたのではなからうか。

①

『旧津山藩別邸庭園（衆楽園保存管理計画策定報告書）』（津山市教育委員会、二〇〇六年）七頁。

②

『平成二十四年特別展 江戸時代の地図づくり 国絵図作成事業と津山藩』（津山郷土博物館、二〇一二年）のうちNo.一五。

③

『岡山県の地名』一九〇頁「山北村」（平凡社、一九八八年）。

④

尾島治『絵図で歩く津山城下町』（吉備人出版、二〇一六年）一二頁下段。

⑤

『角川日本地名大辞典三三 岡山県』三八七頁「北町」（角川書店、一九八九年）。

⑥

『西北条郡山北村本新開田畑高反別畝並改帳』（山北村資料二七七、津山郷土博物館蔵）。

⑦

綱国没後の宮川屋敷については東方里子「綱国死後の宮川御殿」（『博物館だより』「つはく」No.一〇四、津山郷土博物館、二〇二〇年）に詳しい。

⑧

尾島治「津山の城下町における作人の形成と町作」（『津山市史研究 第三号』、二〇一七年）。

⑨

「切絵図」（明治二十一年八月作成、岡山地方方法務局津山支局において閲覧）。

⑩

『西北条郡山北村畝並下改帳 巻・貳』（山北村資料二七三・七四、津山郷土博物館蔵）。

⑪

森家は一八万六五〇〇石で入封したが、その後の検地や新田開発により、貞享年間（一六八四～一六八七）までに、総石高は二五万九三三七石余まで増加した（『津山市史 第三巻 近世Ⅰ 森藩時代』（津山市史編集委員会、一九七三年）二二〇頁）。

⑫

『美作国津山城絵図』（正保元年作成、国立公文書館蔵、国立公文書館デジタルアーカイブより閲覧）。

発行：令和7年3月31日

編集：津山市史編さん室

津山市史だより
第24号

〒708-0824 岡山県津山市沼600-1
津山弥生の里文化財センター内
TEL:0868-22-5820 FAX:0868-24-8414
Eメール:shishihensan@city.tsuyama.lg.jp